

会 議 結 果

会議名 (審議会等)	令和5年度 第1回高砂市子ども・子育て・若者会議
開催日時	令和5年9月29日(金) 18:30~20:10
場 所	高砂市役所 南庁舎5階 大会議室
会議公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 (傍聴者定員数: 3人) (傍聴者数: 0人) <input type="checkbox"/> 非公開 (非公開理由: (例) 情報公開条例第7条の規程に該当するため。等)
事務局 (担当課)	健康こども部子育て支援課 (TEL079-443-9024)
議 題	(1) 子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について (2) (仮称) 高砂市こども計画策定スケジュール及びアンケート調査について (3) こども等の意見聴取について (4) 高砂市子どもの生活に関するアンケート調査の結果報告について
出席者	委員17名(欠席3名)
結 果 (議事録又は議事概要)	
発言者	内 容
事務局	本日の会議資料の確認をお願いいたします。当日配布しております資料の一覧表に記載をしております。 一覧表の1から12が資料となっておりますので、資料がお手元にならないようでしたら、事務局までお申し出ください。よろしくお願いたします。
事務局	1. 開 会 それでは、定刻を過ぎておりますので、ただいまから、令和5年度第1回高砂市子ども・子育て・若者会議を開会いたします。開会に先立ちまして、当会議の公開について、高砂市審議会等会議の公開に関する指針に基づきまして、公開とさせていただきます。また、本日の傍聴者はございません。

<p>事務局</p>	<p>2. 委嘱式</p> <p>それでは次第に沿って進めてまいります。まず、子ども・子育て・若者会議の新しい委員5名の委嘱を行いたいと思います。時間の関係上、申し訳ございませんが、代表委員へ都倉市長から交付させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>【市長より委嘱状の交付】</p>
<p>事務局</p>	<p>その他の委員の方につきましては失礼ではございますけれども、机の上に委嘱状を置かせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。それでは開会にあたりまして、都倉市長よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>3. 市長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、また、夜間にもかかわらず、ご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。また平素より、本市の子ども・子育て支援並びに若者育成に格別のご支援、ご協力を賜り、重ねて御礼を申し上げます。</p> <p>さて国では令和5年4月に、こども家庭庁が創設され、こども基本法が施行されました。この法律は、すべての子どもが将来にわたって幸せな生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども施策を社会全体で総合的に推進することを目的としております。</p> <p>また、6月13日に閣議決定された「こども未来戦略方針」では、急速な少子化、人口減少に歯止めをかけるべく、次元の異なる少子化対策を推進することが示されました。</p> <p>本市におきましても、こうした国の動きを踏まえ、子どもや若者をめぐる様々な課題に適切に対応できる組織体制の構築を図り、様々な企業や民間団体等と連携・共同し、誰一人取り残さない抜け落ちることのない子ども・子育て・若者施策の推進にお一人ひとりが取り組んで参りたいと考えております。</p> <p>令和6年度には、高砂市子ども・子育て・若者支援プランの全面見直しを予定しております。従前からの子ども・子育て支援事業計画、ひとり親家庭等自立促進計画、若者支援計画の見直しに加え、新たに少子化対策の施策を含めたこども基本法に基づく、(仮称)高砂市こども計画の策定を考えております。</p> <p>これらの円滑な策定に向けて、新たな5名を含む子ども・子育て・若者会議委員の皆様、様々なお立場からの幅広いご意見を賜りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>

<p>子育て支援室長</p>	<p>4. 委員紹介</p> <p>市長ありがとうございました。</p> <p>引き続きまして、新たに委員になられました方々の自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>【新委員の紹介と挨拶】</p>
<p>事務局</p>	<p>横山委員より欠席の連絡を事前にいただいております。他の委員で数名少し遅れてこられるということも聞いておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>次に、高砂市の事務局の自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>【事務局の紹介と挨拶】</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。恐れ入りますけれども、市長につきましては、他の業務がございますのでここで退席させていただきます。</p> <p>それでは議題に入る前に、本日の委員20名のうち、現在、15名の委員に出席をいただいております。後程出席される委員もおられますけれども、出席者は過半数となっておりますので、高砂市子ども・子育て・若者会議条例第6条第2項によりまして、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。それではこれより、会議の進行につきましては、委員長をお願いいたします。</p> <p>これまでの進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>それでは委員長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、議題に入る前に、子ども・子育て・若者支援プランについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>【高砂市子ども・子育て・若者支援プランの説明】</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、議題に入りたいと思います。</p> <p>議題1、子ども子育て若者支援プランの進捗状況報告について、事務局から説明をお</p>

	<p>願います。</p>
	<p>5. 議 題</p> <p>(1) 子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について</p>
事務局	<p>【事務局より資料1-1、資料1-2、資料1-3、参考資料①に基づいて説明】</p>
委員長	<p>ありがとうございました。事務局からの説明が終わりました。</p> <p>ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>全体的にAの評価が多く、そこにS評価があつて、という形になっておりますが、いかがでしょう。</p>
委員	<p>子ども食堂ですが、S評価になった理由は子ども食堂の運営に対する補助金交付事業が開始したということですが、新しい団体は増えていきますか？</p>
事務局	<p>新しい団体は令和4年度には増えてはおりませんでした。令和4年度時点におきましては、小学校区では7校区、10団体が子ども食堂として運営しておられております。</p> <p>今年度におきましては、米田地区におきまして、新たに1団体増えまして、この10月末ごろからスタートすると聞いております。</p>
委員	<p>その新しい1団体等の安全性等は、確認するのですか？</p>
事務局	<p>書面上では確認しております。10月の下旬頃開始ということで、訪問をして実際に確認する予定です。</p>
委員	<p>はい、わかりました。ありがとうございます。</p>
委員長	<p>今、子ども食堂が7校区で活動されているということですね。それから1団体増えますが、活動される米田校区は元々別の子ども食堂があったところですので、7校区のまま変わりはないということです。ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。ないようですので、続きまして、資料②について、事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	【事務局より資料2に基づいて説明】
委員長	ありがとうございます。事務局からの説明が終わりました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。
委員	3-2表の、量の見込みの必要利用定員ですが、例えば0歳だと157名となっていますが、これには家でみます、育休をとっていますという方は入っていますか？
事務局	こちらの人数につきましては、お家で見られている方は含まれておりません。
委員	ということは、確保量が上回っているので、定員に達しない園が出てきているということになるのでしょうか。
事務局	こちら確保量は、現在の園の中での確保している定員量になっています。ただその部分については、今後の子どもの人数や国の状況によって変わってくると思いますので、見直していく予定になります。ありがとうございます。
委員長	他にございますでしょうか。 1号認定が減って、2号認定と3号認定とが増えておりますけれども、ここについていかがでしょうか。ではよろしいでしょうか。 では引き続き、議題を進めて参ります。議題2（仮称）高砂市子ども計画策定スケジュール及びアンケート調査について、を事務局から説明をお願いします。 (2)（仮称）高砂市子ども計画策定スケジュール及びアンケート調査について
事務局	【事務局より資料3、資料4に基づいて説明】
委員長	事務局からの説明が終わりました。 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

<p>委員</p>	<p>私は子ども食堂を運営していますが、高砂市内にも、いろんな経験をしている子どもたちがいます。実際に今年の4月に中学校を卒業した子どもが、高校受験したいのだけれども、親の都合等で受験ができない、就職をするという道を選んだ子がいます。その子がきちんと就職できたかという、今はバイトをしながら、というような状況です。これから子ども食堂を運営していく中で、そうした子どもは沢山出てくるのではないかと思います。そうした子どもたちに、少しでも就職ができるような体制をとっていかれたら、と思うのです。子ども・若者を支援するという面でも、子どもたちが安定してきたら結婚もするだろうし、子どもを産んだりするだろうし、高砂という地域への愛も出てくるだろうと思います。早い段階から進路について悩んでいる子が子ども食堂には来ていて、なかなか解決できずに将来のことを凄く悩んでいます。そういう子たちを早くにフォローできるような体制がとれたらいいな、と思っています。</p> <p>これから子ども食堂を運営する中で、そうした子がいたときに、高砂市に声を掛けられるようなルートもつくれたらいいなとは思っていますので、よろしくお願いします。以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>子ども食堂を運営し、様々な子どもと接していただきましてありがとうございます。その中で困難を抱える子どもは多いのだろうな、ということは肌で感じておりますし、今委員よりご連絡いただきましてありがとうございます。</p> <p>確かに特に貧困を抱える家庭において、進路は本当に重要な課題であるとは考えております。経済的な理由で進路の幅が狭くなるというような事実もあり、またその貧困の再生産が繰り返されることも多いのではないかと思います。</p> <p>この問題につきましては、後ほど報告させていただく予定の、昨年度実施いたしました子どもの生活に関するアンケート調査、こちらでも触れておりまして、現在の世帯の所得段階が低い家庭ほどより困難を抱えているという結果が明らかになっております。</p> <p>この子どもの生活に関するアンケート調査の内容を踏まえまして、貧困対策につきましては市で検討を重ねていきたいと考えております。</p> <p>また、今年度も調査を行います。お父さんお母さんに聞く調査もあり、また中学校・高校生に聞く調査もありという中で、現在の子どものニーズを踏まえまして、次期計画にも反映させていきたいと考えております。</p>

	<p>進路という困難を抱える子どもにつきましても、進路だけではなく複合的に困難を抱えておられる子どもというのは本当に多いと思います。そうした子どもたちにどのような支援をしていくかにつきましては、本当に市としての大きな課題であると考えております。アンケート調査の結果や「こども計画」の策定を踏まえて、子ども・子育て施策につきましても推進をしてまいります。</p> <p>もう1点、そうした子どもの声が届くところについて、国が令和5年4月に「こども家庭庁」を発足したと同時に、高砂市におきましても、仮称ではありますが「こども家庭センター」を令和6年4月に開設する予定としております。こちらにつきましては、現在の子育て支援課や健康増進課が持つ機能を加えまして、子ども・子育て世帯が総合的、一体的に相談できる窓口として開設する予定としております。子どもからの相談も受け付けができるような体制を整えて参りたいと考えております。</p> <p>子どもがどこかに相談したい時に、なかなか市役所になかなか足を向けられない、まづどこで話をしたらいいのか分からない、そういった現状があると思います。来年度におきましては、そうした子どもの為の窓口ですよ、というような広報も兼ねまして、子どもに来てもらうなり、例えばSNS等で声が上げられるような仕組みづくりを進めていけたらと考えておりますので、検討を重ねてまいります。子ども自身からでも保護者からでも結構ですし、子ども食堂、学童保育といったところから、こうした声があるのだけれども、どこへ繋いだらよいか、ということをごちらに届けていただけたらと考えております。</p> <p>今後とも市の関係機関や、実際に子どもと接する各団体との連携を深めながら、困難を抱える子どもたちをどのように支援しているかについて、進めていきたいと考えております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>
委員長	他にございますでしょうか。
委員	<p>学童保育を運営しており、子ども食堂でも支援もさせていただいております。先ほど委員から出てきたような例で、市役所の方や児童相談所の方が向含めて動いていただくこともあります。これは意見ではなく、こういうこともあると知っていただきたいのでお伝えすることなのですが、最終的には親がダメと言ったらもうそれで終わってしまう、ということなのです。委員がおっしゃった、元々進学をしたかった子は、親からダメと言われてしまい、就職するしかないと言ってしまう。様々な手だてを考えたり、</p>

	<p>その子に対して声かけをしたり、市役所の方々が動いたりしたけれども、結局、親からもう子ども食堂へ行くなと言われてしまい、子ども食堂に顔を出せない状態になっています。ですから、今僕たちも彼がどのように思っているのかもわからない事態になっています。私たちは本当に無力だなと思います。私たちがどれだけその子を救いたいと思っても、その子自身が進学したいと思っても、結局は親の意向に従わざるを得ないというような事態があったということを知っていただければと思い、お話ししました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。事務局、お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見いただき、ありがとうございます。</p> <p>本当に困難を抱える子どもの声というのが、行政に届くというのが今はなかなかない状況となっております。子ども食堂や学童保育等で実際に子どもと触れ合う方々において、困難を訴える声があれば市へ相談をしていただく、つなぎの役割を担っていただく中で、関係機関においても検討し、子ども食堂や学童保育等と連携を取り合いながら、そうした子どもを1人でも救えるような体制づくりに努めていきたいと考えております。</p> <p>ただ残念なことに、すべての声が子ども食堂に集まるわけではないとも考えています。子ども食堂にも届かない声につきましても、関係機関へ届くような体制づくりができれば、と思います。例えばSNSを活用したものもできないか、ということは今後検討していきまして、力になれるような体制づくりに努めていきたいと思います。</p> <p>経済的なところについて、市がどの程度施策展開をできるかというのもなかなか難しいところではあると思いますが、様々な施策を活用いたしますので、是非市へご相談いただきたいと思います。</p> <p>子ども自身も例えばメールでもいいですし直接窓口に来ていただいて結構ですので、市へつないでいただけたらと思います。どうぞこれからもご協力よろしくお願いたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。他にございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>未来に向けてのアンケートはすごく大事であると思います。若者に対するアンケートについて、対象を15歳から39歳を住民基本台帳から無作為抽出するとお伺いしました。</p>

	<p>しかし、例えばQuoカードがもらえると行ったような特典がありませんので、2,500人のうち一部の意識の高い方だけが回答する、ということになるのではないのでしょうか。限られた一部の人の回答では、未来の施策に繋げることができるのでしょうか。対象年齢の中でも、安定した職業に就いている人ばかりではありませんので、物価高騰もあり、これから結婚や出産を希望していても経済的に難しい方も多いと思います。そのような中で現状、高砂市の利点は待機児童ゼロしかないのでは、と思います。しかし保育士の給料も安いと思いますので、保育士自身が他市に行きたいとなればその利点も継続が難しくなるかもしれません。高砂市に若者が住み続けるために何が必要か、ということは簡単に答えが出るものではないと思います。その為に実施する今回のアンケートも、「答えよう」と思える工夫が必要ではないのでしょうか。</p> <p>また、子ども食堂にはお話しできても、子どもが市役所へ相談しに行く、ということは非常に難しいと思いますので、相談しやすい雰囲気づくりも大切ではないかと思いました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。抽出方法は無作為ということで、これはもう決定でございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>確かに若者については、無作為抽出という中で、必ず回答してもらわなければならない、というアンケートではありません。ですが市といたしましては、やはり若い方に、今後市がどうなって欲しいかということをお答えいただきたい、お答えいただく場ではあると思います。そうした意図をいかに伝えながら、多くの方に答えていただくか、ということはお考えいただく必要があると思います。その工夫を商品ですということは今の段階では難しいのですが。</p> <p>実際、高砂市でも「待機児童ゼロ」という利点がありますけれども、他の子育てに関する事業についても、特に他の市と比較して支援が少ない訳ではありません。明石市は突出していますが、それ以外の市と比べれば、それぞれの部署で、子育てについて様々な施策を図っていると考えています。シティプロモーション室で、PRが少し不足しているのかな、と考えているところもございます。</p> <p>今後若い方々が当事者となって、高砂市の中でいかに自分たちが楽しく生活していくのかということも、聞き出せるような形でアンケートを進めていきたいと考えております。以上です。</p>

<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。よろしいでしょうか。他にございますか。</p> <p>引き続きまして、議題を進めて参ります。議題3 ども等の意見聴取について、を事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(3) ども等の意見聴取について</p> <p>【事務局より資料5に基づいて説明】</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。事務局からの説明が終わりました。</p> <p>ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>3番のオンラインの意見箱の設置ということで、LINE オープンチャットの活用ということになりますけれども、これに対して何かご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>小学生から幅広く意見を聴取するのは難しいのではないかなと思いますね。SNS を使用しているお子さんについても、管理は保護者の方がされている場合が大半を占めておられます。良いアイデアだとは思いますが、もう少し精査する必要があるのではないかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。また、子どもたちの困りごと等について、高砂市でこんなことができればいいなということがありますでしょうか。学童保育のお子さんについて、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>学童の中では日常的に現場のスタッフと子どもたちが、おやつの前等に会話をしたり、質問を投げかけたりはできるかと思うのですが、1年生から6年生まで保育している上に、高学年の比率が非常に少ないです。4年生から6年生までが全体の4分の1ぐらいなので、どちらかというと低学年が中心になってきますので、市の施策で何か、ということではなくて、こういうものが欲しい等、ある程度絞り込まないと難しいのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、近くに遊べる公園がありますか、というような聞き方でしたら、答えやすいと思いますが、高砂市でどんなことがあったらいいのか、と聞いても子どもにとってはわかりにくいと思います。質問を絞りながら少しずつ色んなことを聞いていってあげるのがいいのではないかと思います。</p>

委員長	質問項目を具体的に示す、ということでしょうか。
委員	<p>そうですね、何個かの項目に分けると良いと思います。例えば、学校のことが子どもにとって大半の関心であるでしょうし、また、携帯電話が欲しいとか、そういったことであれば「はい」「いいえ」という答えは出るのではないかと、思います。</p> <p>以前子どもに聞いた時に、新幹線の下の道がガタガタであるとか、暗いとか、そうした声を聴くことができました。</p>
委員長	よく見ているんですね。ありがとうございます。これに対して、事務局の方からお願いいたします。
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>委員のおっしゃった小学校の子どもに関しては、SNSの自由な開放というのは難しいというのは本当にその通りだと思います。SNSにつきましても、犯罪行為に巻き込まれる可能性、危険もあるのだよ、ということは十分承知しているところです。</p> <p>またこのSNSにつきましても、保護者の同意が必要であるという形で、国も進めているようです。実際に高砂市が進めるに当たりましては、小学校の子どもや園への周知はもちろん、その保護者の方への説明というのは十分にする必要があると考えています。検討して実際にできるという段階になりましたら、小学校、中学校に協力をいただきまして進めていけたらと考えております。貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>もう1点、曖昧な問いかけでは子どもが答えにくいよという、貴重なご意見ありがとうございます。できる限り内容を具体的に絞り込んだ上で、子どもが答えやすい形を検討していきたいと考えております。</p>
委員長	他にいかがでしょうか。
委員	オンライン意見箱についてですが、例えば各学校に昔の「目安箱」みたいなものを一定期間おいてもらうというのであれば、子どもたちも書きやすいかもしれないなと思います。オンラインではないですけども、学校という場所を活用するのはどうかな、と思いました。

委員長	<p>ありがとうございます。目安箱ですけれども、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>一つの方法だとは思いますが。ただ大事なのは、こどもの意見を聴取する、その趣旨ですよね。それを子どもは理解しないと、何を書いたらいいのだろうか、ということになります。この街の未来に向けて、自分たちが何を提案したらいいのだろうか、と言うところが非常に大事になるので、これは小学生であっても中学生であっても同じだと思いますので、そこをどう行政が考えられるかというところだと思います。私自身は、やっぱりまちづくりの中で、子育て、そして教育というのは人が集まってくる上で非常に関心が高いと思います。ですから、いわゆる子育てと教育と施策を分離するのはなく、子育てと教育の施策をもっと一体化して取り組んだらいいのに、と個人的には思います。</p> <p>そのための施策としてどのようなことが考えられるのかというと、いわゆる教育部と、健康子ども部の施策を一体化して考えていくこと、これが非常に大事なのかなと個人的には思います。</p> <p>意見箱については目安箱のようなものを実際に置くということは可能ではありますがけれども、繰り返しになりますが、その趣旨をいかに子どもたち、特に小学生は6学年にわたりますので、子どもたちにどう浸透させるかというところが、最終的に反映される意見を集めていくためには重要かなと思っております。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。事務局の方、お願いします。</p>
事務局	<p>委員がおっしゃられたように、子ども・子育て、そして教育、この一体化というのが永遠のテーマといたしますか、非常に難しいです。子どもであれば、当然、小学校中学校、高校と進学していきますが、その行政の縦割りといいますか、所管が異なっております。国でもこの4月から子ども施策の司令塔として様々な縦割りというところを一緒にするために子ども家庭庁ができていますのでけれども、幼稚園、小学校、中学校という一部に関しては文部科学省に残っているという状況です。我々も国が一体化されていない部分について、市で一体化するというのが難しい部分あります。</p> <p>ただ、皆さんご存知のように、高砂市は新しい庁舎になりまして、ワンフロア化しております。2階に子どものブースとしまして、我々の健康子ども部、子育て支援課、幼児保育課、それと健康増進課、この健康増進課については妊産婦を含んでおります。その隣が教育部で、子どもにかかわる部署をできるだけ一体化しようという意図で、でワ</p>

	<p>ンフロア化しております。</p> <p>市民の方が市役所に来た場合に、子どもに関して大きくあちらこちらに動かないように、一つの窓口で職員が動くことによって、行政の縦割りを解消しようということを取り組みを行っております。</p> <p>実際にはなかなか難しい部分も多いのですが、先ほどもお伝えしましたように、名称につきましては検討してまいります。来年度子ども家庭センターを設置する予定です。子どもたちからも、子どもの保護者からもわかりやすい、相談しやすい窓口、教育や福祉、子育てという縦割りを解消した形の窓口設置に向けて進めているところです。</p> <p>なかなか1度には一緒にはできないのですが、一体化に向けて、よく「横串を刺して」というふうに言いますが、そういう形で、子ども・子育ての取り組みを進めていきたいと考えております。これは行政だけではなく、地域の方、今日出席いただいております委員の方にもご協力いただきまして、このように様々な意見をいただきながら、我々も取り組みたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今のご意見いただきまして、他にございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>少し戻りますけれども、提案がありましたネットを利用した意見箱について、やはり自分の意見を何らかの形で訴えてアピールしたいと考える子どもたちが一歩踏み出すあたり、特別なことをしないといけないと考えていると思います。ですから、できるだけ多くの意見を吸い上げるという意味では、皆がしていることの中で、特別な不安、特別な心の動きを拾い上げていくことが重要ではないかと思います。最近、中高生を対象としたヘルスケアアプリっていうものが出てきておりまして、学校単位で子どもたちにそのアプリを導入して、日々のことを入力してもらい、それが実際に中高生で自殺予防に繋がっているというデータも出ています。市民、中・高生全員、中学生全員にそうしたアプリを導入して、その中で意見を言えるようなことを、仕組みとして入れではどうでしょうか。意見の拾い上げやすさ、費用、どのようなアプリがあるのか等、検討は必要かもしれませんが、全員が広くやってもものの中に、意見を伝えられる仕組みがある方が良いのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。それに対して、よろしいでしょうか。</p>

事務局	<p>手法につきまして、学校ごとにヘルスケアアプリを導入しているところもある、というご意見ありがとうございます。ヘルスケアアプリに関しては考えてはおりませんでしたので、検討していきたいと考えております。</p> <p>学校の部局の方にもお聞きしたいのですが、そういったアプリの導入について事例はありますか？</p>
事務局	<p>今お話にありましたヘルスケアアプリについては、今学校が導入しているところを認識しておりません。</p> <p>若者の自殺が低年齢化してきているというのが、国でも大きな問題となってきておりますので、今ありましたように、子どもの身近なスマホ等にアプリを導入するということは研究していかないといけない一つの課題と認識しております。他市町、国など、いろいろな情報を集めながら、進めていきたいというふうに考えております。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。多くの子どもの声を引き上げるための一つの方法として、アプリの利用が必要かどうか検討しながら進めていく必要がある、ということですね。ありがとうございます。他にありますか？</p> <p>では引き続き、議題を進めていきます。議題4高砂市子どもの生活に関するアンケート調査の結果報告について、を事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(4) 高砂市子どもの生活に関するアンケート調査の結果報告について</p> <p>【事務局より「高砂市子どもの生活に関するアンケート調査の結果報告書」に基づいて説明】</p>
委員長	<p>ありがとうございました。たくさんのアンケート項目を、結果を出していただきまして、ありがとうございました。今後の取り組み方向性も示されておりますので、改善に向けて進めていただきますようお願いいたします。</p> <p>議題は以上ですが、その他として、次回の会議日程について、事務局の方で説明をお願いいたします。</p> <p>6. その他</p>

事務局	<p>次回の会議の日程につきまして、子ども・子育て部会、若者部会につきましては、10月下旬に、また、令和6年2月に第2回子ども・子育て・若者会議の開催を予定しております。日程につきましては現在調整中のため、後日改めてご連絡をさせていただきます。</p>
委員長	<p>他にご意見等はありませんでしょうか。それでは以上をもちまして、令和5年度第1回高砂市子ども・子育て・若者会議を終了いたします。</p> <p>7. 閉会</p>
事務局	<p>委員長並びに委員の皆様ありがとうございました。これをもって令和5年度第1回高砂市子ども・子育て・若者会議を閉会させていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>